

## 正岡地区タウンミーティング(要約)

平成25年8月18日(日曜)

【市長】 皆さん、おはようございます。お盆明けの日曜日で、午前中で皆さんゆっくりしたいところではないかなと思いますけれども、このように大勢の方がお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

まず正岡地区まちづくり協議会の会長さんをはじめ、役員の皆様には、このタウンミーティングの開催にあたりまして、お力添えをいただきましてありがとうございます。どっちが楽かっていう極端な話をすると、松山市役所で皆さんが来られるのを待ってたほうが楽です。でも、それでいいんだろうか。松山市は旧北条、旧中島を合わせて41地区に分かれるわけですが、その地区ごとに魅力があり課題があると思います。市役所で待っているのではなくて、我々のほうから出向かせていただいて、そして皆様の声を聞かせていただく。そしてその場を聞いてるふり、やってるふりってするわけじゃなくて、聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないという姿勢ですぐできることから反映をするということで、タウンミーティングやってまいりました。すぐにできることから市政に反映をしてみますので、おかげさまで好評で2年とちょっとで1巡目が終わりました。そして1巡で終わらせるわけではなくて、私が市長をさせていただいている間は、ずっとこれを続けていきたいと思っておりまして、2巡目に入らせていただきました。2巡目でありますので、1巡目にどうのご意見をいただいたか、そしてどのように対応させていただいたかをご説明させていただいて、そしてまだまだ皆さんのお声もあると思いますので、またお声を聞かせていただいたらと思います。

前回正岡地区の代表的な例としては、こういうものがありました。地域の皆さんがつくられた広場に遊具を設置して、地域の子どもさんたちの遊び場として整備することができました。日ごろから子どものことを思いやる皆さんの思いが伝わりましたので、市としても児童遊園地として遊具の設置という形でお手伝いすることができました。まさに住民の皆さんと行政との協働と言える、タウンミーティングでの一つの成果ではないかなと思っております。今日は下に託児所を設けております。子育て世代の方のご意見もいただきたいと思いましたので、2巡目は託児所のスペースを設けて子育て世代の方のご意見もいただきたいと思っております。今日はお子さんも来られてますし、そしてPTAの皆さんにもお越しいただいておりますけれども、さすがに90分ですから肩ひじ張っていると疲れてしまいますので、お子さんも来られております、ざっくばらんな意見交換ができ

ればと思いますので、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【女性】 4月より正岡小学校に勤務しております。ここに来まして一番に思ったことです。正岡地区は大変教育熱心なところですが、地域の支えがあって正岡小学校があるというのを、つくづく感じております。現在子どもは106名、先ほど市長の説明もありましたように学童保育はありません。ということで、共稼ぎの家庭にとっては大変切実な問題です。そこで学校としては、今、放課後子ども教室設置に向けて、保護者と連携を取りながら進めております。さらに校舎が大変老朽化をしております、26年、27年にかけて校舎改築の計画で、今、進んでおります。学習施設課ならびに地域学習振興課にかかわることだと思いますが、学校としては地域に恩返しをすることといえば、学力の保障と学習環境の整備だと思っています。ですから、今後いろいろと地域や学校からお願いに上がることも多いと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。以上です。

【生涯学習政策課長】 教育委員会の津田と申します。まず放課後子ども教室は、地域学習振興課で皆様のニーズ調査とか受け入れ体制がどのようになれるのかということを検討していると伺っております。小学校ですけども、今月中に設計も委託も終わると思います。また、学習施設課にご要望あれば早めに言っていただければ調整可能かと思っておりますので、よろしく申し上げます。工事期間中はご迷惑おかけすると思いますが、よろしくお願い申し上げます。

【市長】 皆さんも待機児童という言葉をよく聞かれると思いますが、今悩ましいのは、松山市は四国の中でも健全財政と言われておりますけれども、決して油断はできない状況です。皆さんも報道で聞かれると思いますが、国自体が1千兆円の借金を抱えています。国から地方に地方交付税交付金とか国庫支出金という形でお金が回ってきます。でも大もとの国が1千兆円の大きな借金を抱えていますから、これから地方に回ってくるお金が増えるとはとても考えにくい。今は状況がいいからといっても、油断をしたら一気に下り坂を駆け下りていくような状況です。ですから油断はできません。そんな中、必ずやらなければならないのは、まず駅の状況です。JR松山駅の高架をする事業は愛媛県がやります。周辺整備事業、東口・西口を綺麗にしていく事業は松山市がやります。JR松山駅の周辺整備事業をやらなければならない。そして松山インターチェンジと松山空港の間が30分以上かかります。全国の24地区で調査をしましたが、4地区だけ30分以上かかる場所があります。その4地区がどこかというところは松山と残りの三つは北海道の3地区です。あまりにも時間がかかりすぎている状況。なぜかというところ、松山インターチェンジから降りて、わざわざ朝生

田のほうに入ってきてぐるっと回って空港通りに行つて、ようやく新しい空港通りに行く形になってますので30分以上かかる。渋滞緩和とかの利点があるので松山外環状道路をつくっておりますけども、こういうふうにやらなければならないことがあります。今、松山市民会館は延命するために耐震工事やっています。コミュニティセンターも古くなっています。松山市全体としてやらなければならないことがあります。もちろん家と一緒にです。貯金をしながらちゃんと備えているんですけども、やっぱり油断はできないので、よくよく考えながら整備をしなければいけない状況にありますのでご理解いただいたらと思います。

【女性】 子どもの関連で前回もお願いしたんですけど、児童館についてです。旧の北条市の頃からずっと北条地区のほうに児童館が欲しかったんですけど、なかなかそれが実現しないということで、できたら正岡校区の子どもたちが自転車で行ける場所に児童館を設置してほしいということでよろしくお願ひします。今回は子どもさんを持つてゐるお母さんの意見も、市長さん聞いていただいたらということで一緒に来ております。

【女性】 4年生と5歳の二人娘がおります。その4年生の9歳の子が2歳の頃から、この地区で育児サークルなどの運営を皆さんとしておりました。そのころから2歳・1歳の保育園や幼稚園上がる前の子たちが行く場所がないということで、正岡地区に限らず北条公民館とか育児サークルとして部屋を貸していただいた際に、2時間まで無料にさせていただくとか、協力していただいて活動してきました。それというのも日中に室内で遊ばせに行く場所が全くなかったので、育児サークルも月1回程度の開催でしたが、公民館のご協力をいただいて無料で借りたりして、運営はすべて皆さん3歳までの子どもを持つお母さんたちで、自分の子どもも遊ばせながらスタッフでないお母さんとお子さんの親子なども一緒にみんなでお友達を作ろうみたいな。ただ時間も決まってきました。月1回この日のこの時間に開催しますということだけで、午後に昼寝をしないで元気な子が行くところは、もう室内で遊ぶ場所は北条地区にはありませんでした。そういうことで児童館をこちらの地区に、正岡じゃなくてもいいんです。粟井とか河野とかすごく若い世代の人口が増えていますので、そういった地区でも子どもたちが自転車で行ける北条地区の子が遊べるところに児童館が一つ欲しいということです。同じように私より少し小さいお子さんをお持ちの今日託児をご利用されて、そして参加できてる方もいらっしゃいますので、お話をお願いしたいと思います。

【女性】 今日は二人の娘を託児に預けさせていただいて参加することができました。正岡地区は特に北条の中でもおじいちゃんおばあちゃん頼り

ながら子育てをできる恵まれた環境にあるとは思いますが、そういう親戚もない、自分たち親だけで子育てしているという話をよく聞きます。そういうお父さんお母さんたちは孤独を感じながら子育てしないためにも、地域に児童館が一つあれば、いつでもそこに行けば誰か話ができる人がいたり、協力してもらえる人がいるという安心感ができ、お父さんお母さん横のつながりもできて、子どもたちものびのび育つことができる。そういう環境ができると思いますので北条地区にぜひ児童館をつくっていただきたいと思います。

【市長】 今、旧北条地域は有力な候補地の一つとしてとらえております。この間、堀江のタウンミーティングでも小学生の女の子から、児童館を近くにつくってくださいという要望がありました。今、市役所の中でも検討しているところです。頭に浮かぶ場所があるんですけども、それぞれにメリット、デメリットがありますので検討しているところです。ただ皆様に言えるのは、子育ての施策というのは1歳の子も3年経てば4歳になります。子育て施策こそスピード感を持ってやりましょうと庁内で言っております。就任させていただいてから北部地域への児童館の設置は、皆様の大変強い要望ととらえておりますので、スピード感を持ってやるべく今、市役所の中ではっぴかけている状況ですので、今しばらくお待ちいただいたらと思います。

【女性】 先ほどから児童館の話が出ていますので、それに付帯して、さっき市長のお話の中で学童保育の件がこれから国の制度が変わって利用できる枠とかも変わって、これからまた設置が検討できるのではないかという話をお聞きして、一つ私自身個人的に両親共に就労していて、おじいちゃん、おばあちゃんも家にいませんので、小さい子どもがまだいるので、とても安心したところですが、あくまでもこれは就労家庭の子どもさん対象であるということと、先ほど校長先生が言われたような放課後子ども教室も並行して二つ一緒にいらないだろうではなくて、よその学校の校区なんかは二つ一緒にあるところもありますので、ぜひまた地域の中でもご協力いただきながら、設置が実現すればいいなと思っているところですが、放課後子ども教室となると就労していない保護者の子どもさんも含めて6年生までの子どもたちがみんなが利用できるという部分で、遊び場が少なかったり児童館であっても低学年の子どもさんはおそらく行けないかもしれないしというところで、放課後子ども教室があれば近くで行かせる保護者も安心だし、子どもたちもここなら大人や友達がいて遊べるとか、なんか活動ができるという楽しい場所が一つ、また正岡地区に増えるんじゃないかなと思ってます。学校内で保護者の方に設置に向けてアンケート

とったところ、半数以上のご家庭の方があればいいなというご希望もあったので、これから設置に向けてまた活動していけたらと思っているんですが、この放課後子ども教室に関しても設置に決まりや制限制約、市としてもあるとは思いますが、また動いていきたいと思います。

【生涯学習政策課長】 教育委員会津田です。放課後子ども教室のお話をいただいております。学校、地域とか公民館の皆様の受け入れボランティアの体制が整っているところからやっております、この周辺でいいますと例えば北条、立岩、浅海、栗井は整っております。最終的に地域で実行委員会をつくっていただいてから、地域学習振興課に申請をしていただく。運営の委託料という形で、年間百数十万円ぐらい出ているケースがございますので、まず地元のほうで受け入れ態勢を整えていただくというところからスタートになります。児童クラブと若干の差はあります。運営時間も確か放課後子ども教室が17時が主だと思います。児童クラブが18時だったと思います。若干の差はありますが、受け入れる体制が整えば、規模にもよりますけども複数の方が重複できるのかなと思いますので、地元でまずご協議いただくのが前提になろうかと思います。

【小学生】 正岡小学校6年生です。地域の公園や空き地があるのですが、きれいなものから全然整備されていないものもあるので、小さい子どもたちや小学生が遊ぶのに危なくない公園などにできるようにお願いします。

【都市政策課長】 都市整備部都市政策課の松本です。ご意見ありがとうございます。先ほど立岩川の水辺公園も現地を見させていただきました。正岡地区にはほかにも公園がございます。公園は公園緑地課が所管して維持管理をさせていただいております。公園で一番大変なのはやっぱり除草、草刈です。春から秋、特に夏場は非常に草が生えるのが早いということで特に立岩川の水辺公園はご意見もいただいております、以前は年3回のところを24年度、今年度と年9回除草の回数増やさせていただくようにしております。まず、どこの公園というようなことでまた言っていただいたら私のほうから公園緑地課へ知らせて整備させていただきます。

【市長】 今日地図持って来てますので、遠慮なくここの公園がちょっとまだあんまり綺麗じゃないんですと言ってください。ちゃんと把握して帰りますから。放課後児童クラブとかその関係で申し上げたいことがあります。これは、一般的な例としてとらえていただいたらと思います。今、世の中で大事なものは、防犯にしても子育てにしても介護にしても地域のつながりです。個々の家庭が分裂してしまうと防犯の面でもよその人が入って来ていても無関心だったり。子育てのことでも地域が協力したらできることがある。私46ですけど、小学生の頃は近所のおいちゃんおばちゃんか

ら怒られたりとか教えてもらったりということがありました。介護のことも、ちょっと出かけてくるから、ばあちゃん見よってくれるとか地域のつながりがある状態に戻していければと思っています。正岡はまだそういう地域のつながりがあるところだと思っています。でも都市部では残念ながら子どもを預けとけさえすれば親が自由になるっていうちょっと無責任な例も感じられます。やっぱりマンパワー、おじいちゃんおばあちゃんたちから教えてもらえることがあります。私も近所のじいちゃんばあちゃん、自分のじいちゃんばあちゃんから色んなことを教えてもらいました。ですので、ただ預けるだけじゃなくて、いかに地域の人生のベテランたち、先輩方の力を生かしていくかっていうのも行政としてもやらなきゃいけないことあるし、地域の方もご協力いただきたいと思うし、人生の先輩方の力をもっと生かしていきましようっていうことをお伝えできればと思って言わせていただきました。

【小学生】 正岡小6年生です。交通安全なのですが、よく横断歩道などを渡っていたら車がスピードを出し過ぎてなかなか渡れなかったり、信号機が少ないので渡るタイミングがよくわからないので学校の行き帰りも困ってる子どもがいるので、信号機をたくさんつけて安全にしてほしいと思いました。

【都市政策課長】 都市政策課の松本です。確かに車が急に出てきたり、自転車バイク等で危ないところがあるということがあると思います。まず信号機については所管が愛媛県警になります。こちらのほうは松山西警察署になります。横断歩道も警察の所管なんですけれども、まず学校あるいは地域の方々と話し合っていて、代表の方にこのところをお願いをしたいという要望書を出していただくことになります。松山市のほうも総合交通課がご相談に乗らせていただいて、現地も見させていただいて協議をさせていただいたらと思います。

【市長】 どこの場所に信号ができたらいいな、みたいなのが後で地図で言えるかな？ 3人で協力して言ってください。まず我々として、どこに信号がついたらいいのかがわかりますので言ってください。皆さん、国道はまだわかると思うんですが、どこが県道でどこが市道かってわかりませんよね。私道もありますし農道もありますしわかりませんよね。国道のことでも、県道のことでも、市道のことでも言ってください。我々から国に伝えますし、県に伝えますし、遠慮なく言っていただいたらと思います。警察のほうも、我々が言うと結構早く話を進めていただいたりすることもあります。実は湯の山ニュータウンの下のところも小野に抜ける道ができて、大分交通量が変わったんですけど、我々から要望したら結構早く

対応してもらった事例もありますので遠慮なく言っていただけたらと思います。

【小学生】 正岡小学校6年生です。通学路のことですが、雨などが多く降った日や台風が近づいている日は用水路やマンホールから水があふれたりすることがあるので、水があふれないようにしてほしいです。

【市長】 はい。わかりました。皆さん7月4日に北条のフジのZ Yのあたりで床下浸水があったのを御存じでしょうか。私もその後に現地を見させていただいたんですけども、こういう事例がありました。7月4日には1時間での降水量が約57ミリ、松山地方気象台が観測を始めてから二番目の大雨が降りました。最近ゲリラ豪雨といまして、昔ではちょっと考えられなかったような大雨が降るようになってきております。ちょうど満潮の時刻と重なってしまいましたので、浸水の被害は床下浸水が8件でした。これはゲリラ豪雨が降ったから、ちょうど満潮と重なってしまったからで終わらせるのではなくて、何かできる対策はないかということで、今、北条地区の海岸沿いの小規模の雨水ポンプ施設の設置から20年以上経ったものがあります。老朽化して水を吐き出す能力が低下していた17カ所のポンプのうち、現在15カ所のポンプの取りかえを行うようにしております。できることからやってみますので、この間はそういうものすごい豪雨が降った、そして満潮の時刻が重なったということがあったというのをご報告させていただいております。

【下水道政策課長】 水路があふれる原因、マンホールがあふれる原因はいろいろあると思います。基本的には水路の排水能力が不足している場合は行政の側できちんとした計画をして、松山市の場合は大体時間雨量で40ミリの雨に対応する施設を整備しております。ただ、皆さんニュースでもご覧になると思いますけれども、今年の夏も何回も色んな地区で豪雨が観測されました。そのときにはこれまで経験のない雨、命を守る行動に移ってくださいというニュースも流れました。松山市ではこういう施設の整備だけではどうしても対応できない、いざというときには身の安全を守ってもらうということも大事だということで、ハザードマップとかソフト対策も整備しております。ですから日ごろの水路の掃除は市も一緒にやっていきたいと思っておりますし排水能力を確保する、そこが不足しているところはぜひどんどん言ってもらいたいと思っております。こういう場合に一番大事なのは浸水したときに道路と川の境がわからなくなって人が落ちてしまうということもございますので、まずそういうところは何をおいても先にせないかんと思っておりますので、もしそういうところがありましたら、今日お聞きして帰りますので、後ほど言っていただけたらと思

います。

【市長】 地図持って来てますんで、ここが危ない感じがするいうのを言ってください。よく通学路で用水路にふたしてくれたら道が広がるからいいじゃないかっていう話があるんですけども、これは実はあまり簡単には行かない話で、そういう水路は農業用の水路として使っていることが多いです。ふたをしてしまうと道も広がってよさそうですけれども、農業をされてる方からすると、その水路に物が詰まってしまった場合などはその掃除がしにくくなるということで、できるだけふたはしてほしくないというご意見もあります。また逆に道が広がったら、そこが抜け道になって車がどんどんスピードを出して子どもたちの安全が逆に危なくなってしまう事例もありますので、よくよく考えていかなければならないところがあります。この間もちょっと危ないところを見つけたので、水路と道路の間に白いパイプを置くようにすることが決まったんですけど、ふたはできなくても、わかりやすいようにパイプをするとかできますのでまた言ってもらったらと思います。

【男性】 この度、正岡でタウンミーティングを開催していただきまして誠にありがとうございます。正岡地域の魅力、自慢したいところの一端を申し述べさせていただきます。すなわち、「まほろば正岡」を指しますが、我々はこの地域に生まれ、育ちまして、おじいちゃんおばあちゃんになります。新井満さんの「この街で」の歌のように「恋し、結婚し、母になったこの街でおばあちゃんになりたい」とありますが、自分の住んでいる正岡に誇りと愛着を持っております。正岡の地理的・自然的条件は正岡小学校の校歌にありますように、第一番に「見よ東天のあけの色 昇る朝日は高縄に」。二番ですけど、「立岩川の水清く たゆまぬ流れかがみとし」。また三番目の頭には「国津のもりを中にせる わが正岡の胞（はらから）よ」でございます。正岡は風早地区のほぼ中央に位置して、朝は高縄山から朝日が出ます。また、北条では一番大きな川、立岩川がそばを流れており、中ほどには、由緒ある国津神社があります。古くから風光明媚な田園文化地域でございます。また正岡の秋まつりは、風早の火事まつりと呼ばれ、だんじりの勇壮なかきくらべや、全国でも有名なお宮の石段からのみこし落としがあります。そして4年前から、愛媛マラソンのコースとなりまして、この日は正岡地区をあげての応援で、とてもにぎやかな応援で多くのランナーを今年も地区をあげて盛り上げました。この日は正岡地区は通行止めで動けない状態が一日続くわけですけど、それぐらいみんなが応援に協力をしてくれております。そして何より一番魅力的なことは、正岡の素晴らしい歴史と文化と伝統、そして温かい人と人との絆が区長制度と

ともに引き継がれてきていることだと私は思っております。正岡まちづくり協議会としましても、先人の偉業を絶やすことなく、後世にこの素晴らしい正岡を伝えていきたいと思っております。そしてこの度、正岡まちづくり協議会の皆さんの努力の結果、まちづくり計画書ができ上がりました。その内容は正岡まちづくり協議会準備会の時点からの正岡地域の方々が、正岡がこうなってほしい、ああなってほしいという生の声約400件あまりをできる限り取り込みまして、まとめた内容となっております。金太郎あめのようなこの地区とも同じ計画書と違って、正岡らしい計画書となっております。松山市も財政状況も大変厳しい状況であろうと思えますけれど、このようなときこそ、まちづくりが大切と思っております。まちづくりは自助・共助・公助の精神でまちづくりの基本原則のもとに、地域の人々が正岡に住んでよかったと思えるような活動を行政とともに、対等な立場で住民主体のまちづくりを推進してまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。

【市長】 今会長さんが自助・共助・公助と言われて、ぱっと漢字が浮かびにくいかもしれません。まず自助は自ら助けると書きます、共助というのは共に助けると書きます、公助というのは公が助けると書きます。これからの世の中、この言葉がすごく大事になりまして、たとえば東日本大震災。皆さんよく映像でご覧になったと思えますけども、たとえば街の安全安心を守る立場の人間、松山市だと消防職員がいます。でも東日本大震災のような大きい災害が起こった際は、消防職員だけで全て対応することは現実無理になります。そんなときに大事な存在として消防団の方がいます。消防職員の5倍の人数がいます。消防団員の方は地元の方ですから、よく皆さんのことを知っています。あそこはおじいちゃんが一人暮らしだ、あそこはおばあちゃんが一人暮らしだ、姿が見えんけどどうされとるかな、そういう知識も全部おわかりですので、消防職員が公助とするならば、自助、消防団員とか防災士の存在は大事です。自分でできること、公ができること、共に助け合ってできること、こういうふうに三つに分かれますので、やっぱりできることはやっていただく、これは行政が身軽になる、楽になるだけの話ではなくて、もちろん我々も皆さんと一緒に共に汗をかいていくんですけども、皆さんも動いていただくとよりよいまちづくりができます。正岡のよりよいまちづくりができて、41地区のまちがそれぞれ輝くと、より松山が輝くということになりますので、皆さんもできることからまちづくりに参加していただけるとありがたいと思えます。

【女性】 割とバイパスのところまでは明るいですけど、それ以降こちらの民家になると、とても暗いです。年頃の娘を抱えているんですが、

駅から帰るときとか中学校で部活を終えて帰るときに、暗いのはとても防犯上心配なので、どのくらいの割合で街灯がつくようになっているのかわからないんですけど、暗いところはぜひ街灯を増やしていただきたいと思います。

【市民部長】 防犯灯につきましては、地元の中で協議していただいて、このあたりにつけてもらいたいということをも市民参画まちづくり課にご相談していただいたらと思います。支所でも大丈夫です。新設につきましては、色んな要件がありますけれども、後の電気代につきましては地元でもっていただくこととなりますので、地元でよく協議した上でご相談していただいたらと思います。

【市長】 うちも娘がおりますのでとてもよく気持ちわかります。お子さんがいらっしゃるから、街灯がいっぱいいついっとたらいいだろうと思うんですけど、農業される方にとっては難しい面があるそうで、田んぼのすぐそばに街灯があつて一晩中灯りがともっていると、稲の生育に影響を与えるそうです。そういうのがありまして、街灯はある程度場所を選ぶというところもあります。ですので、皆さんでまとまっていただいて、ここに設置してほしいという要望を出していただいたらと思います。

【市民部長】 一応基準でいえば、最も近くにある防犯灯から約30m離れていること、電柱への設置を基本にしておりますのでよろしく申し上げます。もしポールを設置するのであれば、設置の許可をいただいたうえでということになるかと思えます。そのあたりが原則となっております。

【男性】 私、ごみの推進委員やっているんですけど、可燃ごみを夏場ですから、カラスや猫が来ますんでネットかけているんですが、よその地区から出勤途中の人がポンと置いていくもんですから、猫やカラスが突っついて大変困るんです。ですから、ごみの出し方のルールづくりとか、教育とか、そういうところを環境部で呼びかけをやっていただいたらと思います。全然お金はかかりませんから。

【市民部長】 通りすがりによるポイ捨てなど、地区外からのマナー違反による被害につきましては、排出者の特定が困難ということもありまして、対処に非常にご苦労されている状況を清掃課も把握しております。ただ地域としてこのような行為を許さないという意思表示を行うことも大切だと考えておりまして、地区外からの持ち込み禁止とか、ポイ捨て禁止などの看板による表示によって警告を発するような対応をしたり、定期的な立ち番をすとかいう対応をしている事例もあるようです。ポイ捨てなどのマナー違反でひどい影響がある場合とか、地元での保管とか処理が困難な粗大ごみ、大きいごみがあった場合は、対応も含めまして清掃課に個別の

ご相談をいただいたらと思います。なお、ポイ捨て禁止の看板やごみ出し  
ルールの啓発看板をご希望によりお渡しすることができますので、清掃課  
までご相談いただいたらと思います。

【市長】 今日、清掃課来ておりませんので、ご相談いただきまして、ど  
ういう状態なのか、また看板をまず貼ることからスタートでもいいですし、  
清掃課もノウハウを持ってますので、そういう状況だったら私どもがこう  
いう対策を取らせていただきますとか、ケースバイケースで対応ができる  
と思いますので、清掃課にご相談いただけたらと思います。

【男性】 耕作放棄地の解消と集落営農について報告やご支援いただき  
たいことのお願いでございます。私ども高縄山のふもとで里山に近いところ  
で、農家の高齢化で耕作放棄地がどんどん増えまして、2年前ですけど地  
域で県の地方局、松山市の農林水産課の担当に来ていただいて、耕作放棄  
地対策の勉強会を行いまして、その勉強会の中で市の農林水産課から実は  
若い農業経験のない方が新規に就農したい、田舎に住んで農業やりたいと。  
何か夢物語のようなのを聞いたんですけど、その方が早速来られることが  
決まりまして、地元では耕作放棄地を地元の力で協力して耕作したり、農  
地の借り上げをあっせんしたりサポートをしまして、昨年から私どもの集  
落に子どもさんと奥さんも一緒に空き家の農家を借りて農業を始めまし  
た。あわせて私どもサラリーマン上がりの60代のメンバー5人で8戸の  
農家から農地を借りて、トラクターを持ち寄って、水田が主ですけど耕作  
放棄地になったようなところを耕して、約120アールぐらいです。まだ  
規模は小さいんですけど米を中心に行いまして、そのときに市の農業指導  
センターからも野菜の契約栽培をご指導いただきまして、去年はそこそこ  
成果がありまして非常に私どもは助かっているところです。採算を度外視  
して、とにかく農業を楽しむという感じで地域コミュニティづくりのよう  
な感じで農業を始めて、今のところ順調にいつているんですけども、例  
のTPPの問題で米価でも大暴落すると採算割れして運営が難しくなる  
とか、自前で持ってるトラクターや機械が壊れるとそれをどうするかとい  
うこと。今、自分たちの年金をつぎ込んでやっていると。どこまで  
続けるかちょっと不安もあるんですけど、引き続き頑張りたいということ  
で、実は今日新規で就農された方がおいでますので、実態報告をしてい  
ただいたらと思います。

【男性】 私は去年の4月にこの地区に移住して農業を始めました。以前  
は神奈川県でシステムエンジニアの仕事をしていまして、それまで農業の  
仕事も全くしたことなく実家が農家というわけでもありません。なぜ農業  
を始めたのかというと、農業にやりがいと魅力を感じたということです。

この地区で農業を始めたきっかけは、先ほどもあったように、松山市の農業委員会事務局に農地の相談をしていたときに、たまたまこの地区で耕作放棄地が出て困っているという話があったので、こちらのほうで話を聞いて、私も中山間地の手前で自然との調和が美しいこの地区が気に入って農業をすることにしました。現在、約80アールの農地を管理しております。今年にはレモンとたまねぎの収入を見込んでいまして、秋にはブルーベリーとイチジクの植えつけを予定しています。2年後には地域振興も兼ねて、ブルーベリーの観光摘み取り農園を開園しようと計画している最中です。一つお願いですが、最近この地区でイノシシとかハクビシンとかの被害が結構ひどくなってきたみたいで、私の農地とか結構イノシシに荒らされて、水路がつぶされたりとか結構大変な思いをしております。イノシシ対策でいろいろあると思うんですけど、電柵とかを張ったりするにはかなりの費用がかかって、例えば80アール全部を電柵で囲ったりすると、何十万円という費用が発生してきます。あと最近イノシシとかだんだん大胆になってきて、人間を怖がらなくなってきたと聞いてまして、私も6歳の子どもがいるんですけども、例えば子どもに危害を加えたりとかお年寄りにぶつかったりとか、もしかしたら起こるかもしれません。なので、松山市としてこれらの鳥獣被害についてどのようにお考えなのかお話を聞かせていただければ大変助かります。

【市長】 それでは私から有害鳥獣対策について話をさせていただいて、矢野課長から耕作放棄地のこと、お子さんもいらっしゃるのでできるだけわかりやすく伝えてもらったらと思います。耕作放棄地って、耕作、耕すのをやめてしまった土地のことです。田んぼ、畑で耕作しないようになったら、そこに草が生えるでしょ。草が生えると虫が出ますね。耕作放棄地だけにおってくれたらいいけど、よその畑も飛んでいきます。迷惑かけちゃうんです。ですから耕作放棄地がたくさんあると、ほかの方にも影響を与えちゃうんですね。この耕作放棄地対策ですけども、今、松山市の特に農業施策で大きく2つの頭を悩ましてるところが耕作放棄地対策と有害鳥獣対策です。なかなか新規で農業したいと思っても入りにくい現状もありまして、農業委員会が下限面積をこのたび30アールに引き下げられました。これによって新規就農の方が入りやすくなっていく面ができたと思います。私もできたら新規に農業される方が入りやすいように環境をと思ってたんですけど、農業委員会が50アールから30アールに下限面積をしてくれるという部分があります。耕作放棄地対策はいつペン耕作放棄地ができちゃうと元に戻すのには時間がかかりますので、できるだけ早くしつかりとやっていきたいと思っています。私が就任したのが平成22年1

1月末ですけど、その前の年の平成21年イノシシをとった数は257頭でした。一頭につき2万円という奨励金を出しております。平成24年度は833頭とっています。掛ける2万円なので、それだけ予算がかかっているということになります。予算がないからもうとりませんじゃなくて、よく笑い話で「野志」と「イノシシ」名前は似てますけど私の天敵ですから、できるだけ駆除するようにしております。狩猟免許持ってる方が高齢化してますので、狩猟免許を取るときの補助を出したり、個人で柵を設置するときに補助出してたんですけども、共同で柵を設置した場合は、もっと広がりやすいですからそれにも補助を出したりさまざまやっているところです。今年は愛媛大学の農学部さんとも連携をして専門的な知識をいただきながら、有害鳥獣対策をやっていくことにしています。今年4月には、これまでは農林水産課でイノシシ対策、サル対策やってたんですけど、もっと責任体制をはっきりするということで、鳥獣対策担当課長をつくりまして、責任体制のもとやっていくことにしております。また、お子さんもいるから気をつけてほしいのは、イノシシは興奮すると、きばが出てきます。きばだけ取って紙をすつとすると、ナイフのようにすばっと切れます。あるときのタウンミーティングで「市長、イノシシ見つけたとき、くわでなぐりに行ってもいいですか」と言われたことがあるんですけども、危ないのでやめてください。猪突猛進って、ものすごい勢いでイノシシは来ます。きばは興奮すると出てきてナイフのような状態ですから非常に危ないです。突き刺さると出血多量で命を落とすこともありますので、向かっていくことはやめていただいたらと思います。

【都市ブランド戦略課長】 産業経済部都市ブランド戦略課長の矢野でございます。よろしくお願いたします。先ほど市長から、50アールから30アールに引き下げというお話があったと思うんですけども、これは耕作目的で農地を売買したり、貸し借りをしたりというときの下限面積が50アールから30アールまで引き下げられるということで、これによって新規就農が比較的しやすくなるんじゃないかということで、実施をさせていただき来年の4月からの制度でございまして、来年度からはそういったさらに新規就農がしやすくなるという環境が整うということです。それから耕作放棄地対策については、どちらの地域も非常に大きな悩みであるわけですけども、国の制度、市の制度がございまして、まず国の制度では、耕作放棄地で荒れてしまった土地を再生しようということで、草刈りとか雑木などの除去などをしていただいて、農地再生をしていただいたり、あるいは肥料とかを投入して土づくりをしていただいたり、さらには農地へ野菜とか果樹とか飼料作物などを作付していただく。こういったことに

ついてそれぞれ支援制度がございます。さらに松山市独自で、土づくり再生作業について10アールあたり5万円、あるいは重機を用いて再生作業を行った場合は国事業の3分の1を上乗せして助成をさせていただき制度も今年度から立ち上げています。それから耕作放棄をされた土地が再生しても、その後の営農に支援がないと今なかなか難しいので、中山間地域であるこちらでは泥上げとか草刈りなどに組み込んでいただく耕作放棄地の防止であるとか、さらにこれから発生するであろう農地の耕作放棄を防ぐ行動、集落で協定を結んでいただく必要はあるんですけども、そういった活動をしていただければ、中山間地域の直接支払制度で交付を受けることもできます。個別の要件などがございますので、農林水産課にご相談をいただきながら一緒に耕作放棄地対策を進めていければと考えております。

【市長】 私から言葉添えさせていただいて。国自体も耕作放棄地対策、農業はなんとかしたいと思ってるんです。今、食糧自給率は日本は40%です。もう少し食糧自給率を上げたいと農林水産省、特に思ってます。でも高齢化のこともあって耕作放棄地も増えている。国もなんとかしたいと思ってるので国もメニューをつくってる。県もメニューつくってる。私も市の独自のメニューをつくってます。皆さんに知ってもらうことが大事なので、平成23年度からは松山市による支援メニューというパンフレットをつくりまして、農業関係者が集まる会合で配布したり農協の支所に置いたりしております。市役所というのは市民の皆さんの役に立つ所で市役所じゃないといけないと思しますので、ちょっとこんなこと困るとんやけどっていうことがあったらどうぞ市役所に相談してみてください。市役所の代表の電話にかけて、「こんなこと相談したいんやけど、どこじゃるか」と言ってもらったら電話つながりますので。遠慮なく相談していただいたらこういう支援メニューがありますってこともできますので遠慮なく相談してもらったらと思います。このタウンミーティング、41地区でやるとさまざま要望をいただきます。私も人間ですから皆さんから要望いただいたら、「わかりました、これもやりましょう。わかりました、あれもやりましょう」って言えたほうが私も人間ですからそれは楽です。市長の人気取りから考えるとそっちのほうがいいかもしれませんが。でもそれは私はやりません。皆さんの声をしっかりと受けとめて、今、厳しい財政の中、何をすべきかという優先順位をつけさせていただきたい。そのためには皆様の声をしっかりと把握することが大事だと思っております。皆さんの要望をいただいて、あれやります、これやりますって言えたほうが楽ですけども、それをやっちゃうと、将来の子どもや孫の世代にツケを残す

ことになってしまいます。もちろんやるべきことはやらせていただきますけれども、皆さんの声を聞かせていただきたいのでお声をいただいたらと思います。

【男性】 八反地の水利を担当しております。私どもは、立岩川から分水させていただいて各水田のほうを回しております。一番大きい大事な水門が立岩川の水辺公園に渡るところにあるんですが、これの底のほうが大分傷んでいてきちんと閉まらない状態です。大雨が何回かきて警報が出て必ず閉めるんですがどうしてもそこから砂が私どもの水路に入る。砂が入ることによって次の水を回すときにその砂で勢いがとまって水があまりきれいに流れない状態です。私どもで水門の開け閉め等がありまして数カ所水門があり、堰板という板で水の調整をしています。一番大きい立岩川にあるのは正岡の八反地地区と中西内区、中西外区、それと北条の土地改良区、辻の土地改良区さんのその5地区で一応その準備をしたり、まあ田植え前には整備をしたりしております。大雨が2回ありましたが2回とも砂が入るような状態なので、その水門を新しくしたい、変えたいという申請は県の河川水路課だと思うんですが、そののちをちょっと聞かせていただければと思います。

【下水道政策課長】 立岩川は県管理ですけれども、私どもでおつなぎしていきたいと思います。水門の関係で一つは農業用の取水の堰は、県の土地改良の所管であるとか、浸水防止のための水門が河川水路とか河川課そういう担当になると思いますので、一度場所を確認して、どういう状況かをお聞きして適切な場所につないでいきたいと思っております。

【男性】 先ほど市長が7月4日に大雨が降ったと。1時間で58ミリということですが、それはどこではかられたのかわかりませんが、4日の雨はおそらく北条地区では100ミリ超えてるんじゃないかと言われております。さっきから言っているように全国的に100ミリ超えるような大雨が降ってます。今後もあると思うんですが、そのときに身を守る手立てとしまして、警報などを出す際に的確な雨量にしたがって対策を講じなければならぬと思うんです。ところが現状どうも、これは私のあくまで推測ですが、松山での雨量計であって、北条の雨量計じゃないと思うんです。そのあたりをもうちょっと正確に情報をつかんで、タイムリーな防災の情報を通していただきたいと思っております。

【市長】 私が先ほど57ミリと申し上げたのは正岡神田の雨量計での数字です。北条のフジのZYの近辺では、時間雨量にすると100ミリを超える雨量だったと聞いておるんですけれども、それが20分ぐらいでやんでしまったので、1時間での雨量ということで先ほど58ミリと言わせて

いただきました。

【下水道政策課長】 ちょっと補足させていただきますと、雨量計は色々な機関が設置をしまして、先ほど市長が申したのは国土交通省・県とかが設置をしているもの。それと気象庁が設置しているもの、色々なところが設置しております。過去2番目というのは松山の持田にある松山地方気象台、そこで観測したものが過去一番大きなものが60ミリ、平成4年に発生をしていますけれども、それと比較をしてわかりやすくご紹介をさせていただいたということです。雨の降り方につきましては強弱ございます。そして10分間ですごく強い雨が降る場合、これは10分雨量ということで流域が小さい、狭い範囲のときはその10分雨量で表現したりすることもありますし、例えば下水道計画であれば60分雨量ということで60分間の雨量で表現することもあります。警報については地方気象台が的確にレーダーとかを見て観測をしておりますけれども、従来は中予地方で一帯で出ておったのが、今現在は松山市、久万高原町とか小さなエリアごとに警報を出せるようになっておりますが、先ほどのご紹介ありました7月3日・4日はゲリラ豪雨で、いつ発生するかわからない雨ですので、そういうときには避難対策、ソフト対策を充実していくということで考えております。

【市長】 一つ補足をさせていただきます。平成23年3月11日に東日本大震災が起こりまして、ちょうどあの日私は東京出張で東京で震度5の揺れを感じました。当時の松山市の防災体制は、何か大事が起こったときには本町に消防局があつて対策本部を設置することにしてたんですけども、大きな災害が起こったときに2kmぐらい移動して本部を構えるというのは大変だと感じまして、平成23年の3月の地震から8カ月はかかってしまったんですけども、年度途中の23年の11月に危機管理担当部をつくりました。危機に対して対応がしっかりできるようにつくっておりますので、防災面での向上はしていると思います。ご安心いただきたいのは、今、四国の消防団の中で松山市消防団は四国一の人数誇っております。そしていざというときには女性の視点、生活者の視点大事ですけども、女性消防団員の数は日本一を誇っております。そして防災士の数は今、全国の自治体別で松山市はトップを堅持しています。防災面では比較的良好な動きができていると思っておりますけれども、これからも緩めることなく、まちの安全安心というのは一番大事な項目だと思いますので、しっかりと強めていきますのでよろしくお願いいたします。

【小学生】 通学のことですけど、白線の中に電柱があり道を通るときに白線のぎりぎりになって車にひかれそうになったり、内側を通る生徒が一

度田んぼに落ちてけがをしてしまったりしているの、電柱の件をどうかしてほしいです。中西外にあるトマトハウスから門前堀のほうの道まで。

【都市政策課長】 ご意見ありがとうございます。場所は先ほどの公園も含めて地図持ってきておりますので教えてもらいます。そして皆さん車で走ったり自転車で走ったりして道路、市道・県道・国道ありますが、公道に電柱があるとやっぱり非常に危ないです。基本的に松山市は新しい道路には電柱はたてないです。私有地に電柱をたてさせていただく。電柱も四国電力の電柱やN T Tの電柱がありますが、これは各地域の皆さんにご協力いただいて、市と関係機関、四電さん、N T Tさんと協議してさせていただいております。

【市長】 皆さん1時間半、90分の長きにわたりましておつき合いをいただきまして、ありがとうございます。さまざまご意見をいただきました。特に子育て環境の整備につきましては、しっかりと受けとめさせていただきますので、また庁内でしっかりと検討させていただきます。途中でも申し上げましたけども、やっぱり市役所というのは市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければならないと思いますので、どうぞ皆さんも敷居を高くなさらないで、色んなことを相談させていただいたらと思います。そして皆さん相談されたときに、職員で対応が悪い者がおりましたら、市長への「わがまちメール」制度があります。至らぬ対応がありましたら、遠慮なくおっしゃっていただいたらと思います。毎日、改善に努めていきたいと思っています。よろしくお願いします。皆さん御存じのように、私は北条の別府に実家があります。もともと政治家の家庭ではございません。一市民から出てきた人間です。そして私がやりたいなと思っているのは、皆さん政治に対して無力感を感じていたり、ちょっと遠い存在に感じられたり、また行政、市役所がちょっと遠い存在に感じてらっしゃるのではないかと考えています。これからも皆さんの声に耳を傾けていきたいと思いますし、そして行政と皆さんの距離、そして政治と皆さんの距離をできるだけ近くしていきたいと思いますので、これからも皆さん方のお力添えをいただいたらと思います。今日いただいたご意見は、一度市役所に持ち帰らせていただいて、一カ月を目途に必ず返答させていただきます。このようなご意見いただきましたが、こういうふうにさせていただきますと意見を返させていただきます。それを見ていただいて、「いやこういうふうにしてもらったほうがええんじゃが」というご意見をまたキャッチボールする関係でありたいと思っておりますので、どうぞこれからもよろしく願いいたします。本当に正岡って前も思ったんですけど、すごく昔から人が住んでいた場所で、とっても住みやすい場所ですから、古墳時代、縄文時代から人が

住んでいるところ。自然豊かだし風景もいいし、だから人が昔から住んでいた。ある意味、富める場所だと思います。だから人もすごく穏やかなんだと思います。今日も非常に皆さんが譲り合いながら意見を言ってらっしゃるのがすごく感じられました。今日は言いにくかったなあという方もいらっしゃると思いますので、市長への直接のメール制度もありますし、はがきでも封書でも何でも結構ですので、また皆さんの声を寄せていただけたらと思います。今日は長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

— 了 —